

イワシ類成魚の分布生態の研究

水産資源調査・評価推進委託事業

(予算区分 受託 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 鈴木 聡志

【研究の背景とねらい】

- ・国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量 (TAC) の決定など資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。
- ・このことに伴い、重要魚種については資源評価が行われ、漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。
- ・イワシ類についても、沿岸に出現するイワシ類成魚の漁獲統計や魚体組成を調査し、その成熟実態と併せて回遊との関連を検討します。

【これまでに得られた成果】

(2020 年度の状況)

- ・マイワシ太平洋系群の資源量は 1980 年代には 1,000 万トン以上の高水準でしたが、1980 年代後半に入ると減少し、2003 年以降は 10 万トン前後の低水準で推移しました。その後、2010 年以降に増加傾向となり、2019 年の資源量は 341 万トンと推定されました。
- ・2010 年代以降、県内主要 21 港におけるマイワシの水揚量はマイワシ資源量の増加に伴って増加傾向にあり、2020 年は直近 10 年間では、2 番目に多い水揚量となりました (図 1)。
- ・カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2002 年までは増加傾向でしたが、2002 年の 291 万トンをピークに、その後、減少傾向にあります。2019 年の資源量は 12 万トンと推定されました。
- ・2000 年代後期から、県内主要 21 港におけるカタクチイワシの水揚量は、変動はあるものの資源量の減少に伴って減少傾向にあり、2020 年は直近 10 年間で 2 番目に少ない水揚量でした (図 2)。



写真 マイワシ(上)と
カタクチイワシ(下)

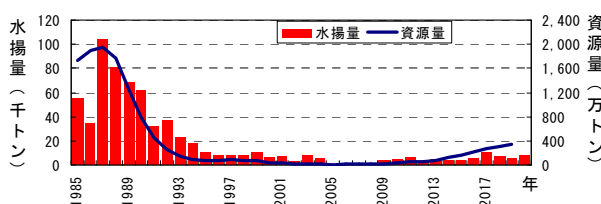


図 1 県内マイワシ水揚量と
マイワシ太平洋系群の資源量の推移

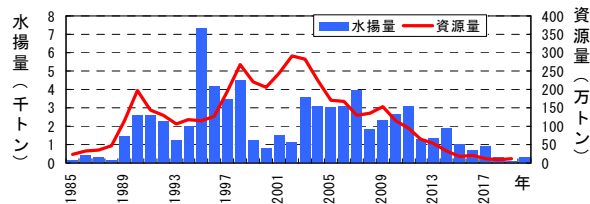


図 2 県内カタクチイワシ水揚量と
カタクチイワシ太平洋系群の資源量の推移

【期待される成果】

- ・水揚量、体長組成、成熟状況等の生物情報を基に静岡県周辺海域における来遊機構や資源状態を把握することで、より精度の高い資源評価や資源管理目標について検討を行うことが可能となります。

【今後の計画】

- ・成熟実態と漁況の関係、県内と全国の漁況の関係について検討し、静岡県周辺海域におけるイワシ類の来遊機構について把握します。

(作成 2021 年 4 月)